

三食昼寝つき温泉宿バイトの謎

中臣モカマタリ

人生なんてわからないものでしてね、ええ。最近の若い方はキャリアプランだとかおっしゃって、わたしたちの頃と違って大学生の頃から将来のことをお考えになっておられる。ええ、そうなんですよ、わたしも大学、出ておりましてね。いや、名門は名門ですがね、そこまで驚かれなくても。

人生の分岐点って、ございますよね。お客様も、おありになったんじゃないですか、人生の岐路、みたいなものが。でもね、分岐点って、二種類あるように思うんです。つまり、自分で意識して選ぶものと、そうでないものと。わたくしの場合、どうも後者でございましてね。はい、まあ、他のお客様もおられないようですから、湯上りのひととき、温泉宿の亭主の話でもおなぐさみになりましょうかね。

大学二回生の夏休みでございましたね。親に頼んで下宿をね、させてもらっておりまして、バイトをして稼がないといけない。いや、家庭教師なんて割のいいのは取り合いでして。

そのときに、たまたま見つけたのが、旅館でのアルバイトの募集でした。びっくりするほどいい条件でしてね、電話をかけて問い合わせたら、条件の通りだと言うんです。うちの大学限定で。

当時、嬉野、なんて知らなかったですよ。九州だと、別府温泉とかね、指宿温泉とかがせいぜいで。で、やることは簡単な客対応だけで、期間は二週間というんですが、少しばかりおかしい条件がついていましてね。旅館でのバイトですから、夜そこに泊るのは当然として、まず、三食は必ずその旅館で食べることに。そして、これが奇妙だったんですが、その旅館の部屋で二時間は必ず昼寝をすること、とあるんです。意味不明でしょ。まあ、学生は夜更かしとかしがちだから、途中で昼寝することで、忙しくなる夕食時に働いてもらうためなのかな、と考えたりはしました。しかし、とにかく金額が半端ないし、食費が浮くのは魅力でして、応募することにしたんです。

当時は ZOOM とかありませんので、電話でね、面接がありましてね。で、採用されました。後で聞くと、わたしのマジメそうな性格と、経済学部でマネジメントに興味があるというあたりが高評価だったようでして。

いや、それは疑いましたよ。シャーロック・ホームズの「赤毛連盟」みたいな話じゃないかと、勘繰ったりしました。でも、仕事は普通なんです。

旅館には、同じくらいの年齢の娘さんがいましてね、まかないは彼女が作ってくれるというんです。板前さんだけでなく女将さんも調理場に入っているみたいだから、もしかすると将来、女将さんになって客に料理を出す時に備えて、練習台として使われているのかもしれない、みたいなことは考えましたが、学食と定食屋とカップラーメンで暮らしている貧乏学生にとっては相当なごちそうでした。

そして、ある部屋で、二時間はとにかく横になっていなければいけなかったんです。幼稚園じゃあるまいし、と最初は思ったんですが、まあ、掃除も含めて力仕事があっただけで疲れたので、たいていは寝てました。また心地良かったんです。アロマの香りなんかしましてね。

二週間のバイトは何事もなく終わり、女将さんたちに感謝されて、まとまった金を手にしました。変てこなことは何も起こらなかったんです。

大学を卒業して、外資系の会社に就職しましてね、そうすると、有名大学を出て外資系で働いているということで、さまざまな女性が近づいてきました。まあ、わたしというよりは、肩書が魅力的だったんでしょうね。

ところが、ですよ。そういう女性と一緒にレストランで食事をするまでにはいいんです。でも、手作りの料理を、という段になると、彼女たちの欠点が見えてくる。どうしても旅館の娘さんが作ってくれた料理と比べてしまう。

その頃に、女将さんからね、久しぶりに遊びに来ないかと連絡が入りまして、それから紆余曲折あったんですが、ご覧の通りといいますか、この旅館の若旦那にね。

でね。どうも、あの学生時代のアルバイトが、人生の岐路だったんじゃないか、という気がしているんです、策略にハマったのかもしれないな、と。

アルバイトが一人きりで、娘さんの手料理。そして、昼寝の間に、潜在意識に働きかける何かをされたんじゃないかって、勘繰ったりはしているんですが、真相はわからないままです。

最近、娘が生まれましてね。ことのほか喜んでくれた義理の父も母も、その話になるとはぐらかすんですな。もちろん、かみさんに聞いたりはしません。山の神がこわいことには古今東西変わりはありませんでしてね。

ま、娘が年頃になってきたときに、かみさんが旅館で男子学生のアルバイトを募集をするといいだしたら、真相がわかるんじゃないかな、と思ってる次第でして。

はい、お食事は１８時からです。大広間のほうにお越しください。

了

(本文 1954 文字)